

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300120		
法人名	ライフサポートNEO		
事業所名	グループホームふおれすと小城センター		
所在地	佐賀県小城市牛津町勝813-2		
自己評価作成日	令和3年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年1月11日	外部評価確定日	令和4年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者様個人の残存能力を活かし、その人らしく生活できるように援助していく。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周辺は田園地帯である。民家や寺院もあり、天気の良い日の散歩に丁度良い環境である。利用者はゆったりとした時間の流れる中で、自分のペースで暮らしている。8年、10年ここで暮らしているという利用者も居られる。入院はできるだけしてほしくないという管理者の強い思いがある。職員の、笑顔のある支援や訪問時の対応には、家族の評価も高い。排泄自立者が多いことや日曜日は布団干しの日など、利用者目線での支援に取り組んでいる。事業所が立地する地形的条件から過去にも水害に見舞われたこともあり、避難場所や避難経路を設定し、利用者の安全を図っている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様からの訴えや要望を職員間で共有し、なるべく治うように努めていく。表情・仕草を観察することで訴えることのできない方でも体調不良を早期に見つけ、長期入院されないように努めている。	ライフサポートNEOの基本理念がある。それとは別に、施設独自のものを毎年作り、利用者中心の支援に取り組んでいる。健康管理、異常の早期発見・早期対応により、入院者を出していない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティア訪問や運営推進会議も開催出来ていない。	2か月に1回、地区の駐在員さんが配布物を持参されるため、その時に地域の情報をもらったり、施設の状況報告など行っている。交流できる環境になれば、地域に出かけていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響で実践できていない。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、運営推進会議は会社の人間のみで開催し、具体的案を市役所・おたっしや本舗の担当に渡している。	家族や地域代表者、行政関係者は未参加の会議が続いている。行事の報告が主な議題である。行政担当者や家族へ配布している。	運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るため重要な機会である。業務継続計画の中で運営推進会議の在り方の創意工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在は運営推進会議議事録を手渡しする際に話をしているのみである。	ワクチン接種の件や水害避難ガイドブック作成の協力要請など、課題や情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の間隔で、話し合いの場を設け、全職員に周知を行っている。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。 玄関より共有スペースに繋がるドアが、以前、不審者出没があり、利用者の安全を図るために施錠されており、その都度職員による開錠が必要である。	自分の意志で開けることのできない施錠についても身体拘束であることを認識し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援する工夫に取り組んでいただくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度程度の話し合いの場を設け、全職員に周知を行い、利用者の皮膚観察を徹底するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料を配布している。自立支援についても、利用者様に合わせ、必要な自立に向けた活動を提供しながら、集団生活で居場所の確保に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭説明を行いながら、ご家族様にご理解頂くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症のため、外部への発信に関しては、運営推進会議議事録に記載するようにしているが、ご家族様には面会の際にも現在の状況説明を行うようにして、要望等を聞くようにしている。	玄関に意見箱を設置している。毎月の便りの配布や電話などで家族のとの情報交換が行われている。入居時の必要な物などのリストの作成や、季節の変わり目の寝具や衣服の交換など、家族の協力がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の施設内での会議の場を設け、意見徴収出来るようにして、内容を精査したうえで業務に取り入れれたり出来るようにしている。	会議の中で出された意見や要望などを聞くように心がけている。また、利用者との日常的なかかわりの中で生まれた職員の気づきや提案を生かすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度、評価シートを作成し、各職員がやりがいや向上心を損なわないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にグループ内の会議、委員会を設置して、参加できるように配慮し、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は新型コロナウイルス感染症の影響で出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後すぐに本人様が落ち着けるように、話し合いの場を設けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前にご家族様から情報収集を行うことで、本人様やご家族様が直面している課題を導き出し助言できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の意向に沿うように話し合いを設けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意向に沿って介護を行い、状況に合わせ、お手伝い等の協力を依頼している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の意向に沿うように、話し合いを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は佐賀県の新型コロナウイルス感染者も減少してきているので、県内在住の方限定で10分ほど面会を再開して、関係が途切れないように努めている。	家族以外の友人知人との交流はできていない。馴染みの場所へ車で出かけ、懐かしいお菓子などを食し、昔ばなしを楽しむことはある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	ホールテーブルの席の位置を随時変更して、会話が保てるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者は現在いないが、その都度連絡相談等があれば行いたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族・本人に施設での過ごし方を定期的に報告し、本人様に意向を確認して、介助をするようにしている。	利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の会話や行動、表情から汲み取り把握している。外出、行事の計画など、特別な時だけでなく家族への電話や、ソファの位置の変更など、日常生活の中でも生かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各職員には入所された方の基本情報を確認すると共に、ケアカンファレンスを定期的に行うことで、本人様の思いを共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態の気づきがあった場合には、申し送りノートに記入するようにして、全職員に共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活動作を踏まえ、ご家族様には積極的に電話連絡で伝えるようにし、ケアカンファレンスの際にプランに反映するよう心掛け、家族、本人がここに来て良かったと思えるように努めている。	担当制となっており、利用者の情報が細やかに記録されている。その情報をもとにケアマネジャーは介護計画を作成している。担当者会議では本人の意向が具体的に記載されている。家族の参加もある。利用者主体の暮らしを支援する計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で毎朝、朝礼等で気づきを確認すると共に本人様にあった対応に赴きをおいている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や本人様の思いをくみ取るようにして、状況に応じた対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の残存能力を把握することで、共同生活の中で安心して過ごして頂けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・ご家族様の希望を優先し、各病院との関わりを大切に考え、本人様が安心できるように努めている。	本人や家族の希望する病院での受診である。協力医の往診は2週間毎、協力医とはなんでも相談できる関係にあり、夜間の緊急対応をお願いすることもある。訪問による歯科診療も行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼時や申し送りノートを活用し、利用者様の状態変化の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院に入院された場合には、施設職員が出来る限り情報提供を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には早い段階より終末期のあり方について定期的にご相談させていただき、施設での看取り希望の際にはかかりつけ医師に助言を仰ぎながら対応している。	指針があり、入居時に利用者や家族に説明している。看取り介護支援の事例もある。協力医(主治医)を中心に、方針をチームで話し合い、安心して最期を迎えることができるよう支援している。対応する職員に対しても、不安なく対応できるよう勤務体制の変更などが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での研修会は定期的に行っているが、実践で対応できるようには出来てないと判断しているため、今後の課題にしたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策についてのマニュアルを作成し、状況に応じた対応がスムーズに出来るようにしている。近隣の住民の方にも災害支援の依頼をしている。	年2回消防署立ち合いの元、訓練が実施されている。事業所のある地域は水害の被害が想定される場所である。行政からの協力要請を受け、水害避難ガイドブック作成にも参加している。	食料や飲料水、トイレ、寒さをしのげるような物を準備しておくことも大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援口					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に応じた言葉かけを実践し、時には方言で伝えたりと対応をかえて取り組んでいる。	年長者としての敬意を払い、利用者の気持ちを大切にさりげないケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの訴えがあった場合には、傾聴しながら本人様が思いを話せる雰囲気づくりを大切に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の思いや体調に合わせて柔軟な対応を心がけて業務にあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様・ご家族様の希望や生活習慣に応じた対応をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に生活レクとしてお手伝いをお願いすることで、残存能力を大事にして対応している。	ごはんと汁物以外は、同グループのセンターキッチンより真空パックの状態届けられる。行事食などは施設で臨機応変に対応されており、昨年のクリスマスは利用者と一緒にメニューから考えて楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に応じて食事形態を変更したり、食事量が減少してある利用者には、言葉かけを行いながら摂取を薦めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方には順番の声かけを行い、介助を要する方には口腔スポンジを使用して介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様に合わせて日中はショーツ、夜間のみりハビリパンツと併用して使用して頂くような工夫をして、一人ひとりにあった対応をしている。	排泄チェックシートを活用し、スタッフ間の情報共有を図っている。声掛けにより失敗は少なく、紙おむつの費用は大幅に削減できており、負担ゼロの利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操への参加を促し、運動を実践してもらうように働きかけをしている。それ以外にも独自に乳製品を取り入れたり工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中の中入浴を心がけているが、利用者様が応じられなかったり気分不良の声があった場合には、午後に回したり翌日に変更等の対応をしている。	毎日入浴できる。週3回入浴が基本である。本人の気分や体調に合わせて翌日にしたり、清拭にしたり臨機応変な対応である。個浴である。介助の程度で二人介助で行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様によって日中を居室で過ごされたり、ホール内のソファで静養されたりと決めごとを設けず対応しているが、長時間にならないように言葉かけを行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の処方されている内容をファイルに綴じ、変更があった場合には申し送りノートに記入対応しており、各自が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動の中で、各利用者様が笑顔で過ごして頂けるように、四季のイベント等を取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により施設周辺の散歩など出来る限り行うようにして、遠方などを希望されている場合には、ご家族様に相談するようにしている。	天候を見ながら近所の散歩をしている。近くに寺院があり、散歩コースの一つである。時には新聞の掲載情報をもとに車で出かけることもある。5月は鯉のぼりを見に出かけた。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中にはご家族様から現金を少額であるが、持っている方もいる。しかし、使用されるようなイベント等は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望された場合には、電話をかけられるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内では季節感を感じていただけるように飾りつけを行い、会話の中で四季を感じてもらおうようにしている。	南向きのリビングは明るく静かである。ソファやテーブルがあり、思い思いに過ごされている。トイレは広く、杖置きなどの工夫がある。廊下の吹き抜けと天窓は明るく開放的、廊下に飾られている日々の暮らしを伺わせる写真の数々は利用者、家族に喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あまり出来ていないが、昼食後等に複数人がソファで過ごしてもらえるように言葉かけをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際や面会時など気づきがあった場合には、ご家族様に相談させていただくようにしている。	入居時に本人と家族の意向を汲み取りながら一緒に考えている。自宅の延長線を考慮した居室づくりを心掛けている。ベッド(電動)のみ施設で準備されている。布団は持ち込み、日曜日は布団干しの日としている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のやりたいこと等、職員が目配りしながら楽しんで過ごして頂けるように言葉かけを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない